

# 北村孝子さん (小来川中) が一席

## 道路愛護作文コンクール

日光市道路愛護協会が行なつた、道路愛護についての作文コンクールは、北村孝子さん(小



【表彰を受ける北村さん】

来川中一年)が一席に入選したほか、入賞者が次のように決まり、十一月十四日、市役所の応接室で、同協会の会長である星野市長から、それぞれ賞状と賞品が贈られました。

○入賞者

- ▽一席、北村孝子(小来川中一年)
- ▽二席、星野由美子(所野小二年)
- ▽三席、湯沢玲子(山久保小四年)
- ▽佳作、小杉嘉昭(野口小六年)
- 中沢



十一月十六日までに、善意銀行に金品を預託されたかたのお

### 道路愛護作文コンクール入選作

一席 小来川中一年 北村 孝子

#### 道路愛護について

私たちの住む、小来川は、四方を山に囲まれている。どこへ行くにも、山を越えなければならぬ。その苦勞を少しでも少なくしてくれるのが、道路である。どんなに、小さな道でも、あれば助かる人がいる。

しかし、道路の大切さを考えないで、ごみや、つばなどを捨てる人がいる。これを、あたり前なことだと思っている人が多し。捨てた人だって、道に、ご

みが落ちていけば、いやな気がするだろう。それなのに、ごみを捨てる。そんな人は、きっと他人のことは、あまり考えないのだから。そして、道路のことも。

また、道路にごみが落ちていれば、だれかが、ひろえば良いと思う。それが、ひろわない。よいことをするのを、恥かしいなどと思うのだから。しかし、良いことをするのだから、恥か

しからなくても、良いと思う。むしろ、あたり前のことだと思う。バスに乗った時に、必らず言われることは、「窓から、ごみなどを投げないで下さい」。

これは、通行人に迷惑がかかるだけではなくて、道路そのものを、いためることになるからだ。

私たちの小来川は、夏休みに道路清掃をする。だが、ごみなどは、減るところか、増すばかりだ。それを見かねて、ごみ箱を置いて、そこには入れないで、他の所へ捨てる。(せつかく、ごみ箱を置いたのに)と、思うと腹が立つてくる。

小来川などは、まだ良い方かもしれない。町などでは、道路を良くしても、自分の家の前だけ。と言った考えの人が、多くいるからだろう。

私たちは、道路清掃が終わった時の、気が忘れられない。ごみや草などが、なくなつて、道路が広く見える。この気持はいつでも味わえると思う。少しでも、ごみをひろう。大きな石をどかす、などだ。

ちよつとした、ことでも、すがすがしい気持を、味わえる。私は、こう考える。道路愛護と言うことは、環境を豊かにするばかりでなく、心も豊かにすることだ。

### 郵便局から...

■小包は15日、年賀状は22日までに

年末は郵便物がごみあいます。年賀状は早めに出してください。小包にも郵便番号をお忘れなく。

■保険料前納で有利な利息を

簡易保険には、有利な保険料の前納払い込みがあります。3か月分以上前納しますと預金利子に比べ、大幅な利息が、しかも前払いの形で手に入ることとなります。ぜひこの制度をご利用ください。

## 年末・年始の 飲酒運転追放運動

12月16日～1月15日

酒、その一ぱいが

いのちとる

